

《ハナショウブの育て方》

・重要なのは株分け！

ハナショウブを栽培するのに一番重要なのは、株分けです。株分けとは、植物の根株を分けて増やす方法です。定期的に株分けをしないハナショウブは、狭い鉢の中に根がいっぱいになってしまい、根から養分や水分が吸収できなくなり、年々衰弱して枯れてしまいます。また、いつまでも同じ圃場や畑に植えたままにしておくと、連作障害（嫌地）などから、やはり年々衰弱して枯れてしまいます。そこで、毎年綺麗な花を咲かせるためにも、株分けが非常に大切な作業になります。

準備するもの

- ・ 苗（丈夫で葉の多いもの）
- ・ 用土（強い肥料分のないものが理想です。市販の培養土や赤玉土など）
- ・ 鉢（プラポッドなどでも良いのですが、4号鉢以上のものが理想です）
- ・ ハサミ、移植ゴテ



株分けの仕方



① 写真は株分け、植え付け前の状態です。



② 鉢の縁や脇を軽く叩いて、鉢から抜き出します。



③ 抜き出したら、軽く土を落とします。



④ 移植ゴテなどで、株を3～4つに割ります。



⑤ 鉢に用土を入れ、株を植え付けていきます。



⑥ 植え付け後、十分に灌水して株分けの出来上がりです。



株分け後の育て方

1. 育てる上で大切なポイント

ハナショウブは水生植物ではありません。

湿地や湿原などの水が多い土地に育つ（好む）植物だと思われがちですが、水が必要なのは芽がはじめる3月頃から開花する6月までと、株分け・植え付け後です。乾燥しすぎも育成に大きな影響を及ぼしますが、水の与え過ぎにも地下茎や根を腐らせてしまい、株が枯れてしまいますので、十分気をつけてください。

一般的な園芸と同じように、鉢や地面の表面が乾いたら、水を与えるようにしてください。植え付ける場所は比較的日当たりのいい場所を選んでください。鉢で育てる場合も日当たりのいい場所に置くようにしてください。

2. 秋口には十分な栄養を

植え付け後、暑い夏を乗り越え、秋口から養分を蓄える時期になります。1年間の施肥量の5分の4はこの時期に与えるとも言われるくらい、栄養が必要です。市販の化成肥料や油粕を株元に施してやると良いでしょう。

3. 冬場の手入れ

肥料を地下茎に十分蓄え、ハナショウブは冬を越します。11月中旬頃から少しずつ葉が枯れ始め、12月には完全に枯れてしまいます。枯れた葉はそのままでも構わないのですが、株元を清潔にするためにも、害虫の越冬場所を作らないためにも、葉を地上から2～3センチのあたりで切ると良いでしょう。葉の切り口と株の周囲にスミソン乳剤などの殺虫剤を散布してください。ハナショウブは寒さに強い植物ですが、冬場が非常に寒く、植え付けた場所に霜柱が数センチから数十センチ上がってしまう場合は、株元に藁やビニールマルチを敷く防寒をしてください。

4. いよいよ花が咲きます！

厳しい冬を越え、翌年の2月下旬から芽が出始めます。

芽出しから蕾の上がる5月の連休頃まで、10日に1度程度液体肥料を散布してください。

*液体肥料がない場合は化成肥料でも構いませんが、化成肥料は効果が30～50日前後と長いからです、頻繁に与える必要はありません。

蕾が出始めた後、花を早く咲かせようと肥料を与え続けると、花が咲かなくなる「花止まり現象」の原因になってしまうので、くれぐれも肥料の与え過ぎには気をつけてください。

3月頃から6月は水を十分に与え開花を見守ってください。

ですが、ここでもあせって水をあげ過ぎるのは禁物ですよ。一年間頑張って育てたんですから、ここもじっくり腰を落ち着けて、開花まで待ちましょう。

その甲斐もあり、きっとハナショウブは見事に咲き誇ってくれることでしょう。

